

S 国 語 問 題

注 意

- 一 試験開始の指示があるまでこの問題冊子を開いてはいけません。
- 二 解答用紙はすべてHBの黒鉛筆またはHBの黒のシャープペンシルで記入することになっています。HBの黒鉛筆・消しゴムを忘れた人は監督に申し出てください。
(万年筆・ボールペン・サインペンなどを使用してはいけません。)
- 三 この問題冊子は16ページまでとなっています。試験開始後、ただちにページ数を確認してください。なお、問題番号は一〜三となっています。
- 四 解答用紙にはすでに受験番号が記入されていますので、出席票の受験番号が、あなたの受験票の番号であるかどうかを確認し、出席票の氏名欄に氏名のみを記入してください。なお、出席票は切り離さないでください。
- 五 解答は解答用紙の指定された解答欄に記入し、その他の部分には何も書いてはいけません。
- 六 解答用紙を折り曲げたり、破ったり、傷つけたりしないように注意してください。
- 七 この問題冊子は持ち帰ってください。

マーク・センス法についての注意

マーク・センス法とは、鉛筆でマークした部分を機械が直接よみとって採点する方法です。

- 一 マークは、左記の記入例のようにHBの黒鉛筆で枠の中をぬり残さず濃くぬりつぶしてください。
- 二 一つのマーク欄には一つしかマークしてはいけません。
- 三 訂正する場合は消しゴムでよく消し、消しきれずはきれいに取り除いてください。

マーク例

①	1	2	3	4	5
0	0	●	0	0	0

(3と解答する場合)

一 左の文章を読んで後の設問に答えよ。(解答はすべて解答用紙に書くこと)

時間とは、人間の営みから独立して不断に、それゆえどこでも、誰に対しても平等に、過去から未来へと一定の速度で流れてゆくものであり、人は決してその時の流れに逆らうことはできない。時間の中に社会があるのであつて、社会の中に時間があるのではない。どんな社会もこの時間の流れから逃れられないことは、諸社会、諸文明の⁽¹⁾コウボウを描く歴史や年表も示している通りではないか。近代人の常識的な時間像とは、おそらくこんなものだろう。

だが、この常識は、私たち自身の時間意識を振り返っただけで、容易に [] することができはすだ。たとえば「昨日の今頃」とか「先週の今日」、「来年の今頃」といった表現をする時、私たちにとつて時間は過去から未来へと直線的に流れるものというよりも、一定の周期で反復するものとして了解されている。「また新しい年がやってきた」とか「日はまた昇る」と言う時、そこでは時間は一定の速度で流れ去つてゆく透明で空虚なものではなく、繰り返し更新される質的な属性をもつものとしても捉えられている。「週」や「年」といった区分は、現在でもイスラム諸国やユダヤ教の人びとが異なる曆を使つていふことからわかるように、時間の人為的な区分であり、構造化である。不断に流れる時を測定する単位としての時・分・秒もまた、その人為的な区分であるに過ぎない。

哲学者のエルンスト・ユンガーは『砂時計の書』の中で、日時計、砂時計、機械時計は、それぞれ質的に異なる時間を表示していると述べている。日時計が示すのは天体の運行に基づき、自然環境に内在する宇宙的時間である。それに対して砂時計は、砂が落下し尽くすまでにかかる一定の時間を、自然から切り離されたものとして提示する。砂時計が示す時間は、連続的な砂の流れが示すように持続的で分割されてはおらず、また、その砂時計が置かれた周囲で、砂時計の砂が落ちつづける間しか意味をもたない時間である。だが、機械時計になると時間は時・分・秒の単位に細かく分割され、ゼンマイや振り子によって継続的にその時を刻み、時計台や懐中時計

などの普及によってそうした時間が都市や地方、国家などに普遍的なものとして行き渡るようになる。日時計、砂時計、機械時計では、それぞれが示す時間の形態が異なっており、そうした時が人びとの営みにとつてもつ意味も、それが果たす社会的な機能や役割も異なっていることが分かるだろう。

実際のところ、自然界には「時間」などというものは存在しない。そこに存在するのは事物の持続や変化だけである。そのリズムや周期、間隔などを人間が記述し、把握しようとする時、そこに「時間」という形式が、発明され、動員される。時間はそれを測定し、それによって世界を分節して知覚する人間存在なしには存在しない。

『砂時計の書』の時間論は、時間という形式が一方では日時計のように、自然環境に内在する存在としての人間がその環境と関わる時に見出されるものであること、と同時に他方では砂時計や機械時計のように、社会の内部で行為や関係を調整しようとする際に見出されるものであることを示している。また、日時計、砂時計、機械時計という形態は、自然のリツドウと共に反復する時間と自然から切り離されて一定の方向へ不断に流れてゆく時間、持続として現れる時間と数量的な単位の積分として現れる時間といった、質的に異なり、時に対立する時間の様相が存在することを示している。こうした時間の異なる様相は、空間の場合と同じく、人類学や歴史学、宗教学や哲学などの多くの研究によつても示されてきた。

時間が自然なものではなく、人間が世界と関わる際に見出され、利用されるものであるとすれば、様々な社会に見出される時間の様々な様相は、そうした時間を用い、それによつて自然環境や共存する人びととの関係を調整する社会のあり方の違いに対応しているはずだ。

たとえば現代日本の社会学者・真木悠介は、人間にとつての時間の形式を「可逆性としての時間／不可逆性としての時間」「具象的な質としての時間／抽象的な量としての時間」という二つの対立軸によつて構成される、「可逆的で具象的な〈反復的な時間〉」、「可逆的で数量的な〈内環的な時間〉」、「不可逆的で具象的な〈線分的な時間〉」、「不可逆的で数量的な〈直線的な時間〉」の四つの類型に整理している。真木によれば、⁽¹⁾可逆性としての時間は、

原始的な共同体のように昼夜や季節を繰り返す自然的な世界に人間存在が内在している社会形態に対応し、不可逆性としての時間は、都市文明のように自然に対して人間存在が自立し、あるいはソガイソガイされた社会形態に対応している。また、具象的な質としての時間は、労働や祭礼などを通じて他者との具体的な共同性に人びとが内在する社会形態に対応し、⁽²⁾抽象的な量としての時間は、近代的な分業や市場経済などを通じてそうした共同性から人びとが自立し、あるいはソガイされてゆく過程で人びとの関係を調整する媒体として現れてくるという。

このように捉えるならば、抽象的な数量としての時間が過去から現在へと不断に流れつづけるという近代人の時間意識は、人間存在が自然からも、具体的な他者との共同な関係からも自立し、あるいはソガイされた社会形態としての「近代」に対応しているのだということが出来る。機械時計によって刻まれる、抽象化され、数量化された時間を媒介にして、近代は具体的な場所や環境を超えて、互いに直接現前しあうことのない他者との間にまで社会的な協働連関を広げてゆく。近代を特徴づける社会形態としての資本制も国民国家も市民社会も、こうした時間を仲立ちにする人びとの共在として現れるのである。

「歴史」という、現代人にとって社会や世界を理解する上で不可欠な了解の形式も、社会の特定の形態の成立との関係なしには存在しえない。

原始的な部族社会に代表される、^(注1)レヴィ・ストロースの言うところの「冷たい社会」では、社会も世界も不可逆的な時間の流れと共に変化してゆくものではなく、神話的な起源やアニミズムの秩序(注2)によって構造化された、時の流れに対して不変で、くりかえし再生し回帰するものとして捉えられている。そこでは重要なのは「変化」ではなく「変わらないもの」であり、社会は不可逆的な変化をできるかぎり排除することによってその同一性を維持しようとする。社会の形態はきわめて緩慢にしか変化せず、その結果、冷たい社会には事実上も、人びとの意識においても、「歴史」がほぼ存在しない。

だが都市文明が成立し、自然環境に対して大規模に働きかけ、戦争や交易などの社会的な交流や支配階級のコウボウが始まると、社会は時の流れと共にその形態を変化させてゆくものとして捉えられるようになる。社会は

循環する自然の時間や、閉鎖的で共同体的な紐帯から切り離され、変動を自らのうちに取り込み、歴史の温度が高まった「熱い社会」が出現する。文字による記録がそうした社会の変化を書き留めるようになる⁽³⁾、そのようにして書き記された「歴史」が社会を理解する基本的な枠組みとして機能し始めることになる。

(若林幹夫「時間の形態と社会の形態はどのように関係しているのか？」による)

(注) 1 レヴィ・ストロース——フランスの社会人類学者(一九〇八—二〇〇九)。アメリカ先住民の神話研究で有名。

2 アニミズム——生物、無機物を問わず全てのものに靈魂が宿っているという考え方。

問

(A) 〓 線部(イ)の漢字に改めよ。(ただし、楷書で記すこと)

(B) 〓 線部の読みを、平仮名・現代仮名遣いで記せ。

(C) 空欄 □ にはどのような言葉を補ったらよいか。左記各項の中から最も適当なものを一つ選び、番号で答えよ。

- | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|
| 1 概念化 | 2 構造化 | 3 相対化 | 4 体系化 | 5 普遍化 |
|-------|-------|-------|-------|-------|

(D) 〓 線部(1)について。この時間を示すものはどれか。左記各項の中から最も適当なものを一つ選び、番号で答えよ。

- | | | | | |
|-------|-------|-----------|--------|------------|
| 1 日時計 | 2 砂時計 | 3 日時計と砂時計 | 4 機械時計 | 5 砂時計と機械時計 |
|-------|-------|-----------|--------|------------|

(E) 〓 線部(2)について。この時間を示すものはどれか。左記各項の中から最も適当なものを一つ選び、番号で答えよ。

- | | | | | |
|-------|-------|-----------|--------|------------|
| 1 日時計 | 2 砂時計 | 3 日時計と砂時計 | 4 機械時計 | 5 砂時計と機械時計 |
|-------|-------|-----------|--------|------------|

(F) ———線部(3)について。これはどのような意味か。その説明として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

1 構造化された社会では、時間は人間の営みから独立して一方向に流れていくため、そこで起きた事象を記すことが文明の発展に役立つということ

2 都市文明が成立し、自然環境に対して大規模に働きかけることは、社会の中に時間を置くことを意味するということ

3 時の流れと共に形態を変化させていくものとして社会を捉える都市文明では、その動態の記録が社会を理解するための手掛かりとなるということ

4 社会は時の流れに対して可逆的であり、そこで起きた戦争や交易などの社会的交流を記した書物は後世の人々にとって指針となるということ

5 都市文明が成立した社会では、人々は閉鎖的で共同体的な紐帯から切り離され、「歴史」を理解することが社会を構成する一員として不可避だということ

(G) 左記各項のうち、本文の趣旨と合致するものを1、合致しないものを2として、それぞれ番号で答えよ。

イ 時間とはそれ自体が自然の中に存在するのではなく、人々が世界と関わる際に見出すものである。

ロ 「週」や「年」などは時間の人為的な区分であり、線分的に流れる時を測定するための単位である。

ハ 具象的な質としての時間は、祭礼などを通じて自然環境の中に人間が内在する社会に現れる。

ニ 「近代」においては、時間は互いに接触することのない人々の分業関係を調整する媒体となっている。

ホ どのような社会であっても、時は過去から現在へと流れて社会の形態は変化する。

二 左の文章を読んで後の設問に答えよ。(解答はすべて解答题紙に書くこと)

われわれが、自然界の生物集団のわくからぬけだして生活しようとするとき、他の生物との競争がはじまる。そして、熱帯のジャングルと原住民、田畑の雑草と農民など、生物社会で質量ともに主役を演じている植物と人間との戦いが続いている間は、苦闘しながらも人類もまた生物社会の動的なバランスの中で生存してゆける。

〔a〕 緑の自然をわれわれが完全に征服し、圧倒的に勝つたと思つたとき、大自然の生態系のひとまとして生きのびてきた人間の生活も破綻をきたし人類の生存の基盤が失われることになる。

それでは人間の生活にそれほど本質的に重要な緑の自然とは、何であろうか。そして人間はいつたい自然の何であろうか。人間生活と緑で代表される自然とはどのような関係があるのかなど、自然と人間の本質について追求するとき、われわれは人類の永遠の課題に直面する。遠い古代から多くの人たちによつて、自然とは、人間とは、それぞれの立場から論じられてきた。多くの哲学者の考え方が示すように、多くは自然を人間と対立させ、人間の側からこの課題を解決しようとした。したがつて、自然の概念は、それぞれの社会や個人の世界観によつて規定されてきた。現代の自然科学、とくに生態学の立場からみれば、人間も一つの自然界の構成要員にすぎない。また生物集団を研究対象とする生物社会学の立場からみれば、人間は、地球上でもっとも発達した生物体ではあるが、生物社会のわくからはみ出して、他の生物集団と隔絶しては一時も生存が許されない。

われわれがかなりの程度に、物質的生活環境や生き方を思うように変えることができるようになった現在も、そして遠い遠い未来も、人間が命をもつものとして生きてゆくかぎり、⁽¹⁾いくら原始的だといつてじだんだ踏んでも、この冷厳な事実——人間も自然界の構成要員、生物集団の一員である——を無視できない。

⁽²⁾ 高邁なる理想に燃えた地球の王者「人間」も、あらゆる奢侈、^(a) 栄華、欲望の権化と化した人間も、かれらの生存基盤がグラグラとゆれ動き、危機に瀕したとき、ただ一個の生き物としていかに生きのびるかにキョウホンする。⁽¹⁾ 生命の危機に対しては、すべての生物は、虫も草も人間も、すべてををかけて個体や種族の防衛に専念する。

そして地球上の人類は刻々と自らのつくり出した技術と科学文明の成果によって、かつてない繁栄を謳歌している代償として、かれらの生存のパートナーである生物社会の他の要員である緑の森林や多彩な動植物と、さらに人間も含めた全生物の生存基盤——自然——を人類の生存が不可能になるほど侵食しはじめている。

地球上のすべての無機的、有機的構成要因が、そこに生存している人間、動植物、カビやバクテリアの微生物まで含めて、すべてが自然の構成要員で、たがいにソウコクしあい、競争しあいながら、時間の流れにそって、遠い過去から、ともかくにも生物社会の秩序のわくの中で [b] 平衡状態をつづけて現在に至っている。おそらく半永久的な未来まで、地球をとりまく自然は、その一構成要員にすぎない人類が、どんな妙薬や劇薬、はては水素爆弾以上のとてつもない危険物をつくりだして、地球上を焼きつくし、汚染しつくしたとしても、すべての生命——植物も動物も——を死滅させ、まったく回復不可能なほど自然を破壊しつくすことはできない。自然は強い復元力をもっている。

では何のために自然保護が最近叫ばれているのだろうか。この自然保護提唱者の中にも、自然の構成要員である人間の多様性が自由に表現されていて面白い。様々な思想や立場の人たちが、いろいろな体験や観点から自然保護や動物愛護をとなえている。花が美しいから、鳥が可愛いから、裏山がけずられるから、海岸や湖が埋め立てられるから等々、そのよびかけの直接の原因はまったく多様である。しかし、かれらが意識するしないにかかわらず、かれらの叫びの底流には、⁽³⁾ 生物としての生活の基盤が失われていくことに対する生きものとしての本能的な危機感が流れている。

およそロマンチックな自然の愛護などにまったく無縁な私までが、あえてこの問題に警鐘を鳴らすのも、現代の人間の生活域の最低限の自然の確保は、もはや花のためでも、鳥のためでもなく、まさにわれわれ人間が何とか破滅しないでよりよく生きのびてゆくのに必要なためである。ささやかな生態学、植物社会学という専門分野のせまい研究をとおして、生物のそして人間とその自然環境との多様なかわりあいから、人類の将来が一般の人たちより幾分早く予見できるからにすぎない。したがって、今の時代を生きのび人類の将来の心と体の健全な

発達を願う者は、政治家も経済人も一般市民も、それぞれの立場で真剣に考えなければならない時期に至っている。すでにわれわれは自分たちの生活環境を産業の発展、国土開発、地域開発の勇ましい掛け声の下に破滅直前の状態まで追いこんでいる。

この自然と人間、いや自然界の中の人間の問題について、身のまわりの、そして地球上の現実を自分自身で見きわめるための最低限の尺度として、自然とは何か、生物社会の秩序とは、すべての動物や人類の生存の基盤といわれる裸の地球を被つて^(b)いる緑の着物―植生―と人間との関係、現在われわれのまわりに存在している植生―現存植生―は、その土地固有のポテンシャルな植生力の表現である潜在自然植生より、人間によつてどのような変えられてきたか、われわれは正しく知らなければならない。

(宮脇昭「植物と人間」による)

問

(A) 〓 線部(イ)・(ロ)を漢字に改めよ。(ただし、楷書で記すこと)

(B) ─ 線部(a)・(b)の読みを、平仮名・現代仮名遣いで記せ。

(C) 空欄 [a] には、どのような言葉を補つたらよいか。左記各項の中から最も適当なもの一つを選び、番号で答えよ。

- | | | | | | | | | | |
|---|-----|---|-----|---|-------|---|-----|---|-----|
| 1 | むしろ | 2 | つまり | 3 | したがって | 4 | しかし | 5 | さらに |
|---|-----|---|-----|---|-------|---|-----|---|-----|

(D) 空欄 [b] には、どのような言葉を補つたらよいか。左記各項の中から最も適当なもの一つを選び、番号で答えよ。

- | | | | | | | | | | |
|---|----|---|----|---|-----|---|-----|---|-----|
| 1 | 動的 | 2 | 史的 | 3 | 調和的 | 4 | 恒久的 | 5 | 相対的 |
|---|----|---|----|---|-----|---|-----|---|-----|

(E) ─ 線部(1)について。なぜ「われわれ」は「原始的だといってじだんだ踏」むのか。その理由として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

- 1 人間と自然との関係について長年にわたって論じてきたが、いまだ解決に至らないことが齒がゆいから。
- 2 人間は地球上でもっとも発達した生物体であるので、他の生物と隔絶しては生存できないことを認めたくないから。

3 自然を完全に征服しても、より快適になるところか人間の生活自体が破綻してしまうことに矛盾を感じるから。

4 物質的生活環境を思うように変えることができるようになっても、他の生物との競合が続くことが腹立たしいから。

5 人間がいくら文明の発展を謳歌しても、生物社会での主役の座を未発達な生物から奪えないことが悔しいから。

(F) ——線部(2)について。「高適なる理想」の具体的な現れとして最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

- 1 緑の自然からぬけだして生活する
- 2 生物としての限界から解放される
- 3 植物とのあり方を真摯に追求する
- 4 文明を謳歌し思うとおり生きる
- 5 緑の自然を可能なかぎり征服する

(G) ——線部(3)について。これは何によってもたらされたものか。その内容を最もよく表している十五字以上二十字以内の一続きの部分を、本文中から探し出し、初めの三字を記せ。ただし、句読点は含まない。

(H) 左記各項のうち、本文の内容と合致するものを1、合致しないものを2として、それぞれ番号で答えよ。

イ 自然保護が叫ばれているのは、全生物の生活基盤が失われることに對する危機感を誰もが生まれながらに有しているからである。

ロ 人間は他の生物との戦いに勝つことによつて豊かな物質的生活環境を手に入れたが、その過程で自然を破壊してきた。

ハ どれほど自然が強い復元力を持っていても、完全に破壊しつくせば、長い年月をかけても元の状態に戻ることはない。

ニ 自然界の中の人間の問題というものは、はるか以前より^{そじょう}組上に載せられてきた人類の永遠の課題である。ホ 筆者が自然破壊に注意を喚起するのは、研究者であるがゆえに人類の将来が一般の人たちよりも早く予見できるからである。

三 左の文章を読んで後の設問に答えよ。(解答はすべて解答用紙に書くこと)

今は昔、紫式部、上東門院(注1)に歌詠み優の者にてさぶらふに、大斎院(注2)より春つ方、「つれづれにさぶらふに、さりぬべき物語や候ふ」と尋ね申させ給ひければ、御草子ども取り出ださせ給ひて、「いづれをか参らすべき」など、選り出ださせ給ふに、紫式部、「みな目馴れてさぶらふに、新しくつくりて参らせさせ給へかし」と申しければ、「さらばつくれかし」と仰せられければ、源氏はつくりて参らせたりけるとぞ。

いよいよ心(4)ばせすぐれて、めでたき者にてさぶらふほどに、伊勢大輔(注3)参りぬ。それも歌詠みの筋なれば、殿(注4)いみじうもてなさせ給ふ。奈良より、年に一度、八重桜を折りて持て参るを、紫式部、取り次ぎて参らせなど、歌詠みけるに、式部、「今年は大輔に譲り候はむ」とて譲りければ、取り次ぎて参らするに、殿(注5)、「遅し遅し」と仰せらるる御声につきて、

いにしへの奈良の都の八重桜今日九重にほひぬるかな

「取り次ぎつる程もなかりつるに、いつのまに思ひつづけけむ」と、人も思ふ、殿もおぼしめしたり。

めでたくて候ふほどに、致仕(注5)の中納言の子の、越前守(注6)とて、いみじうやさしかりける人の妻に成りにけり。逢ひ始めたりける頃、石山に籠りて音せざりければ、つかはしける、

みるめこそあふみの海にかたからめ吹きだに通へ志賀の浦風
と詠みてやりたりけるより、いとど歌おぼえまさりにけり。

まことに子孫栄えて、六条の大式、堀河の大式など申しける人びと、この伊勢大輔の孫なりけり。白河院は曾孫おはしましけり。一の宮と申しける折、参りて見まらせけるに、「鏡を見よ」とて、たびたりけるに、たまはりて、

君見ればちりもくもらで万代のよはひをのみもます鏡かな

御返し、大夫殿、宮の御をぞにおはします、

曇りなき鏡の光ますますも照らさむかげにかくれざらめや

〔古本説話集〕による

(注) 1 上東門院——一条天皇の中宮彰子。藤原道長の娘。

2 大齋院——村上天皇女、選子内親王。賀茂の齋院を五十七年にわたって務めた。

3 伊勢大輔——女流歌人。中古三十六歌仙の一人。彰子に仕えた。

4 殿——ここでは道長のこと。

5 致仕——退官、辞職していること。

問

(A) ——線部(1)の意味として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

1 単調ではない新趣向に満ちた物語

2 歌詠みとして読んでおくべき物語

3 退屈な今の気持ちを表した物語

4 所在なさを紛らすのに適切な物語

5 春の季節にふさわしい恋物語

(B) ——線部(2)は誰の動作・行為か。左記各項の中から最も適当なもの一つを選び、番号で答えよ。

1 紫式部

2 上東門院

3 大齋院

4 伊勢大輔

5 殿

(C) ——線部(3)の現代語訳として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

1 皆が読み飽きておりますので

2 皆さま見る目がおありなので

3 すべて読みなれたものですので

4 いずれもつまらないものなので

5 どなたも読み込んでいらっしゃるので

- (D) ——— 線部(4)の意味を四字以内で記せ。ただし、句読点は含まない。
- (E) ——— 線部(5)の現代語訳として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。
- 1 たいそう大事に待遇なされた
 - 2 とても強く推薦なされた
 - 3 大変きびしく扱われた
 - 4 熱心にお世話をなされた
 - 5 実に冷たい扱いをなされた
- (F) ——— 線部(6)の「思ひ」の具体的内容として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。
- 1 身の振り方を考えること
 - 2 和歌を詠むこと
 - 3 取り次ぎ役の交替を準備すること
 - 4 きびしい歌の修練を重ねること
 - 5 殿の好みを調査すること
- (G) ——— 線部(7)の意味として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。
- 1 気が引けるような人
 - 2 心やさしい人
 - 3 情趣を解する人
 - 4 耐えがたい人
 - 5 控えめな人
- (H) ——— 線部(8)の現代語訳として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。
- 1 世間の噂にのぼらなかつたので
 - 2 訪ねてこなかつたので
 - 3 無言の修行をなさっているので
 - 4 便りがなかつたので
 - 5 声を聞けなかつたので
- (I) ——— 線部(9)の文法的説明として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。
- 1 カ行四段活用の動詞の未然形 + 現在推量の助動詞の已然形
 - 2 ラ行四段活用の動詞の未然形 + 推量の助動詞の已然形
 - 3 ラ行四段活用の複合動詞の未然形 + 推量の助動詞の已然形

4 形容詞の未然形 + 推量の助動詞の已然形

5 形容詞の語幹 + 現在推量の助動詞の已然形

(J) —— 線部(10)の意味として最も適當なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

1 歌人としての評判

2 和歌への理解

3 歌詠みとしての自信

4 歌人の夫からの愛情

5 歌人として生きる覚悟

(K) —— 線部(11)の現代語訳として最も適當なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

1 お目にかけてたところ

2 結婚をおすすめ申し上げたところ

3 占ってさしあげたところ

4 お会い申し上げたところ

5 ご対面くださったときに

(L) —— 線部(12)の説明として最も適當なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

1 伊勢大輔が一の宮に鏡を与えた

2 一の宮が伊勢大輔に鏡を与えた

3 伊勢大輔が大夫殿に鏡を与えた

4 一の宮が伊勢大輔に和歌を贈った

5 一の宮が大夫殿に和歌を贈った

〔以下余白〕